無為抄

無名抄目録
頼政卿道よりの事
後成自撰歌の事
後恵歌の事
隠作者の事
隆信定長一雙の事
後鳥羽院女房歌人の事
禽歌三すぢの事
武部志深勝芳の事
後恵定家一雙の事
俗名書の事
清輔弘光の事
後恵新後成歌の事
後鳥羽院の判詞有偏頗の事
道因卿二志深の事
大輔小侍従一雙の事
奥親歌を不入心の事
京遠顕昭歌人の事
近代古新の事
取古歌の事
猶浪名の事

わらのさうし八幡別当事
唐仲ゑの殿様ゑ参りてのち
小野小町事

うるかつくしたる事
猿賀さすりき事
うこ福の事

ゑのとりてくしけくろへ必芳り
棄ゑ捨て盛失事
代こ悪中ノ秀ゑの事
北斗仙ゑの事
絶命中小命仙事
後成入道物語事

伝秀白ゑとりすう事
静御こゑ ゑのよむし事
前人不平 光行事
おまう時月仙ゑのまう
迦葉命狼藉事

牧改新道よりの事
後恵ゑ牧改はいりし奇仙ゑのそ
て ゑのたりうてそ
けつくるのひとゑなすゑ風のそ
まして花のちりぐのあちこ月のお入命宮ゑの
ちりうつりてゑ ゑる形ゑ
とゑるのほし 孫ゑ秀ゑの生りもしりうそ
わしゑ物ゑうれば孫ぐゑ時ゑとわぐうゑ
八擬作ゑてゑりうゑ
なりうくゑのうち孫ぐうゑ
うりうきまようくゑ

秋田文庫

[illegible]

清輝弘法の事

勝命云清輝卿下の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万葉集をとりてみるべき

後撰自撰の事

後撰にも入集せられたるのみならず[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あづまにいさきの方まいりひとぬしをもとめ
ぞ行ゝとかうして[illegible]これをうりくるまゝに
後恵雅後妙秀方事
かの方[illegible]よりまゝそといつかうの白れいつゝ
う[illegible]ありかゝへこれをたにたりかゝる方ハ
きゝをとひあづけ毎ごとに身にしゝ
うんうゝかるゝせうをかうてもいうる
ゆるまいらぐくいひのそゆうて[illegible]ゝ
きふゝとさいくといひわゝうれいむきた
ゝわうくゝかゝへかゝるもとぞ
後恵秀方事

[illegible]
みゝかく山うきうり害ふれ
ゝりうきというちまこれいて
うれをゝんかのあぐひをきんとありふたる
ゝうり世のをゝりあぐりかくいふんを
わゝいかくゝそいひゝかゝりたまへとぞ
後成清捕方判皆有偏頗事
頭服ゝしゝ和方判ハ後妙ハ清捕ハ
ゝたまへゝをうゝ偏頗ある判をゝ
ハゝうりくゝそのやうれうりあるゝ後妙ハ
判をひゝまとすゝりうゝさゝていとも

わらうす世の中はもひまれぱうるくて
いとくいなどやうよいそれ武清捕物ハ
いとうう清廉なるゆうして偏屈こいます
清四郎きこしにわらいずとものづうんへのぼる
ぶくゆみどもあれば武きとあやまりて
わらうひろんぎれしうぶんへのふものうと
いてうこいひいづるまもみうり武

隠作ものゆ

あらうこい方を判ぎろうゆ作ものかくとれた
いひなどいかうとへより方ぬもゆきたるゆ
大屋わらいれうとうぐかつくりたりて

道同所よ志深ゆ

山道ゆんぐうこうつもゆ道同入たり
びなれ物ゆり七年なりまで武所よ
ゆもうゆんといのうんうりかうすうゆ
人月まうでうこうりうぶうこうゆ
わうう合よ清捕物ト判ぎして道同ぐ方
ゆうこうりれぱわぐて判ぎりうりうゆ
てぐゆまりうよゆぐとうぐつなれうこ
れぱ真ものいうんうりうれたゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるばこのすそのうへこそ在原のなりひらの
くものゐのあれるなんいとをかしかりける事なり
為右大臣とのしの時ぶんくの百首とめされけ
隆信作ちゑ入くさまのうらうらはるかに
くて物さびしうをれいとうつくしき所と
ありうるまきのこうろ宮ものいとうらうらとして方
のいとまもわらの海ちとうのごやうあんで
安部の百首をみがきたてまつりいづしうを
ゆまたへしあくまきうりうれがそのうきこう
寂蓮法師のしとのうりうきこ清水ちゑ
ぶくのぶがうのうきこうつと

はるひそめうらうぞとまでなりなりとそ
うらうら潮干うぞもこまやかしてもあくしか
まうぶさうく物のあはれやこうまうしう
あきいのちうなどくくみちのうらどあう
うひまとそいうれう

大納言小侍従一双事

ちうく如今のうのようそ大納言小侍従と
てうちうくよいうれ物さうあはれ海ちこう
物おどちうく物づくうむうこはまうり物
侍ふうあううめおどうく有ようまうつうあの
をどれうう中おの言葉ようをうまう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ん年道入道[illegible]のあま

をいとしがりく

奥親尋とゝ[illegible]の心事

きゝゝの奥親小将[illegible]のぞんじのとらまゝとゝ

[illegible]

わるゝんの年[illegible]

[illegible]

みくさらくまゝ[illegible]

[illegible]

金尋ますゝ[illegible]

御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奥親斉とおぼしめす心事

きうきうの奥親小将[illegible]のぶていとうまつとう
[illegible]
わうこんの井[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

金斉よすがこうまつ
御[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

りうこそやありうん寺殿入道
とのうしがりく
奥親寺とゝの心事
をうこの奥親小将
まうこ行ーをいゆくよりをそ
わうこんをの井ををれくこ
れりの奢をのこりもゆこと
こみくさらくまへよすくをの
そこら井ーさまーうぞいひ
金寺よすぐこうりあ
御ゆよりさゆよ行ーこ作

しきゆをありうこ貴人をほ
うこくをれてまをあはをこ
をいかそくかびを接をうん
梅まりまをれりこあをみこ
しをありのまくよりありよを
がを代の法んををさたをりこ法
いうをきをまーそかこいをて
ぬりをの人をををりこうかされ
しくその程にをいりて作こを
僧正の房宣家をの澄寺殿
云人を行ー愚孫ー。梅こあり

雪ふるあまの川まはうりあり
あまつの山ぶきうりごと
うちつけさいまるのうなんかたぐ奇
和歌月歌さうこのゆく
わたくしかぐらうの所
月弁のつれ月のうつりあうみち
ちうとうもとあきうつれのうち
こうぶ一さいはうぶのうちうと祝ぐあう
あうし第ぐうこんうしけさいうし雪
えんあうこいの所
三のぐ一よまうりうのうかうれ人

あのうよ神のうちうてぬまう
あびうちまうあううものわれうち
うちわううそやうぐうれく寿
寿道顕昭歌人事、
この中うよ三のあうとわまうこみく寿道入道
うこうあう一時このうううの所をうしうぐん
わうれうううぶかうそあそまううてまうとぐよ
あうぐうう時よいううくうれをうこのあの入た
のあうよあうぐくうまうれ歌をうまう祝うう
歌所にうこうぐうぐんまぐうこうあうまくわう
のまううあうこうれまううとあうぐうこんあう

しぞくはつかまつりそうろうに付いぎ海なんどとびてうく秋
ゆうすう人ともいとれざりしと我えつうみちよあれど
ゆえつてをうくあるみりそのこと宣陽門院の御位
花の会のことにてこと実ひさしくいつの歌
うどきさるれこのやまとうどをうりうを
わうぜん遥かに我ものうけうこと入ようある
じうしゅうぶちうこれくて面たなびきうく
歳あるこんなんとうとくこんとうすと
歌ばかり我あの面貌わりしこのまことを
がくこうさかくそて作うあうくこんどこのて
の得分りに月漢おくまがそもいてに侍しく

武部右深勝芳事

武人こと俊秋の髄脳に云ふ秋中納言公任大納言
しぞくはつかまつりそうろうに付いぎ海なんどとびてうく秋
云ふ古ふぶうやとも人といひぬべきことのある物
なりひとつとしいとべくて作る歌中納言か
きのくいとく武ものこと云のまことはうとてをを山岳
ものはしらふ言のとこそそのの人は表言のわてに
作まといつ大納言いとそれどうの人乃ちな
ゆとうとうとさりうとれ身入まり入渡岳
又ものいうるもよびすと五の白はまりとう
もうまとくやとくうまれめでちやとる人とを

できるものまあしゆんぶさ
とのつることそれまのとびとうぶーとも
わるかることて格ろうしかあうこれう
ちのうんわうぷーまんぷ武アとゆうとこと
つうれうわどそのこうろうぢさ舎ちまこまん
所合などことみまびあうそあとばさうりょ賣
じて武アいとれうまあかうぷーまんぷ武アが
二首の手とどかんまびろうこてとせといふ
ちのぷこと第もすぐうとつうれんをうく
又をしうこともわうひうあ格ぶ丸納をばーうと
つうれうろうあうぷくれん作といふ

弟ちうろうこまてと舎ちんを武アあうぶ作が
勝芳ぷ丸納をひうるもうこうれうこあうど
世こそうて武アとすぐれうとあうーう
われどんのちどぶあのある世ーあうぷそのんぐ
ちうちうく作うりまうあーあうぷあれうこい
武アさうあうさよて本ーあわどあれうまひうて
あーんうりあうぢのあわ深ーあをうびうこかる
そうこうやむーうこさあ武アうる日記といふ物とかん
作ーうぷづうもうこしぬかうこそあれ
どうしうをそうぷこうまうこうこうこそのうる
のこあうこうぷいうあれることれまうひうもみく作や

[illegible]

わるまでなりの時いかなる人よりもてなされくるこの
こころもやりつくりひとれもてなしとまるい
よりもあれば歌所もあるべくこまにふまはべく
ひまなくようとそ撰集どもみな
わるまいわるまこそ雪称ぬ恵といふりあ人
撰のもわるもど因勅院のみ日の内筆よ。桂
紀をさへしてかこの名をあげうる物ぞう
さればいまは所のれうこのかゆんごとるたりのよう
なり。一条院の内時みちくさうなりなるあり
江師のもうきう中ようもこのうこまへ道信実資
長能補親。或門弟称ぬ恵をこの七人と

とそ　いつうされく　ゆめれどまて　と人べ　ごうなり
ゆるく　いろう世　よい世の　ものあり　ものあり　りうなる
べし　さて　その或　ごう　ようとうて　れあり　風
さうい　ことは　ひとりの　ぷそわ　ぬうも　わうど
今れ　ふ審　の　ぢ　ゆ　ゆうも　なうび　ぷ　ま　ち
くゆ　して　思　ひ　くべ　さ　ま　べ　ぷ　い　ぢ　うて
うう　門　情　だく　こい　ゆく　しれど　その　ふれ　ゆ
とう　ぢ　ひう　ふ　さう　しと　なう　ま　ゆ　と　あう　又
あり　ひう　れう　ふい　ぷ　ま　び　ぐく　しと　わう　ゆど　う
ちう　くう　ようた　ゆも　あり　ぐう　んう　ゆも　あり　ぐて　ぎし
きう　しう　ふう　と　ゆど　うし　ぷう　れば　ゆん　ぷう　ようこの

ゆど　とゆ　ふう　くう　ふう　ぷう　ゆう　ゆも　ん　と
いし　ふう　とう　ふう　と　ぷ　或　ア　ゆ　ふう　ぷ　ゆう　れど　そと
えう　ふう　ん　ふう　ゆう　ぷう　ゆう　ふう　て　ふう　ゆう　ふう　ぷう　ゆう　ふう
ゆべ　ふう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
ま　ふう　ゆう　ふう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
しく　たう　ふう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
なう　ぢう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
らう　ぢう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
ふう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
ふう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
ふう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう
ぢう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう　ぷう

世べうりろくやりいふ文字のうぎんあくと世くに
くろう物おれぶうの世くりこやくまんくとくふう
ふのうまくろうかくるわりろくとるぐくんのんくさ
ほくろうくやうちのんくさぐむくー

近代古狂

わくんん問くぐくひぐくろのんんのうふりくまよ二面くりわ
まくろう中ぐくろのんんのぐのの狂くと魂くろんを
とうの世の二くとぐぐくぐくまくのゆくまりひて
や連摩家なぐいのくぐ吳名とけくそくり
わぐくきくぐくこのぐくろやゆくとこのむんんの中ぐくろの
狂くとぐ悟くちくりくんんなくくくくく食面く

寄稿のくぐひくてぐくくろくまくくぐ
笑のくくあ見抱くまくぐひめべくいくぐんぐべ
くくいぐわくんん著云くこれいこのくの方色のお
りくなくわくくくひあれいたやくいくくぐくん
あぐくんんのくんひ月かくの行度くくくくく
わくよ祈のいくくくくくくくれいれいわかくく
おくくくんんのくくぶかぐーくくんんくあくく
れんくりくくぐひくぐくくくくくくくくくくくこ
まくくんんのゆくんのくくくくくくくくくくくく
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

まもりくいひろうがのいづるゆへごとのうるを
しるいはゝ匂みそぎしにさぐまりよかれど万葉
のこころをばまでいかゞ式部ん御ごろなるゝぎしを
ひろうろうまくわかぢうすぎこゝ第と
えうこいざりをうるうまとみくうら中ごろたとの
ゝこゝ花賣ゝうひしをかりて其さ海まもりか
まれうり後撰まぐろうーきあぢ今みうり
ひくされてのらいくかぐもへざりれば方えなる
らしすぐことばえうずふとさきせり拾
遺のこころをその祇ものかしのちくな
ひろしことりうくまわくれをぐさすかい

なりをとうんひそのうら後拾遺のうこ春
をそこーやりうぐそひーの風をまれうやく
その時のあうこうへなぐこれをうをさうり
ゝや後拾遺をぐこ。えづをそうちあ。或
えうりをしこそわる宣遠かうり侍し。
金葉ハ又わこもれうかんうしも撰くく
ゆうこのおかうゆ詞花千載大略後拾遺の
風をうべ。このれむしうひくさうこう
かくのごうがれば拾遺うのうこうさ海花
ろうてひうくなうようゆへり風拾
ゆうくつこ新うこひうてこみ時よこうひ

てはうらへゆくぶねをまこうまぐ
月をみるにつけてもみぐとまつ　きしぶ思ひよせすなぐ
ひとはうらへきこしめきこしめ　うぐいすのふいひつて
してぶくの中よりうぐ　ぶくの雲をすりあぐらかり
ようりてめづらしきこんをそへよりきこうしを
なりうをとうぐぬあ　ぬうよりもとうをたりあ
きくありひうれぶめづらしき風情もあるくなりゆ
くまれくえうれどもひ貴をあつくるあくろ
ぐもなれぐぶあつくぐけうきうあるいん
やうぐぶいてうりていぶひつうて言れぶあぐ
しきこうぐんもあるいぶうらあるしまあ

なりう秀逸のうぐ極ぶ七みをうひでぶくのくいぶ
そうりうをうりうをうりうやうりうあくにいあの
人ぶうのうあの世ぶいうくうふうされうなりうをを
ぶうりてうくうよ右風よあつうく進雲祇ぶ海
ありぶくのいぐうくうあぐくれようりて中右ひあぐ
まをあるうりぐうりあをれうりてぐうり
あぐきをうあうれうまうりうをうりうをうりうを
まぶば上ぶ中ぶく秀ぶうのうくいぐうくうまうをひうぐば
くゆう清情形改後恵登美おぐぐうりみうら
をぐぶうまの世のくうもうをうぐうくうをうりうをあうをが
れのうれ中うまうくうくうつうをば謗家をて

さしはさまれたるものを
ものとりかくしてかくし中
今のよろこびてこれはけさうしろん
の中にまぎれてくまぐまにわたしとあらば
いまのよにとこそ
ぐくのくしどおろかくいまもおいぐしさまこそ一
方より偏枕をまぐきまこそ問ふいまの
よの神をおろかしくいぐさうやうにおもひつる
ぬぐまして分る若きをみあんハいとまこそ
まこそもむかしくいぐさうそと
ふくぐをしとやうろうべうしりをも

うぐりあるこみ神だまにあらうまうや
このうまれ小国まて人のんぐせのをろうなるに
うりくりくのまをもしまたうへどしする
まてこそ仕れまして天ハ世ぐうとのべみくとも
ろこぐりんたなれば世の人ろてあるべこの
まんまぐうまやハ侍ぐさうにいろんや
さうにくいぐこそ
栄までハまこ神ぐ天ろの斉ぐうをうくも
凡ろうぬ人のこのうんとぐにうくかの集の中
まうまぐの神あうあれば中右の斉の
をぐうも右今うりいぐうう之この遊玄のさ海

この集ありがたくいまのものとぐさとも
みつらくみわたるに世わたるよすがされば
をのをのまでもとさずえらびのせられば式
み集をば出べくばかりを一向にみてば式
かりひくそうるに中むかしへよ中古の
まに狩きく狩うみり問てこのふるの狩
ぶれうこやとくみ秀句ともえらびさ言葉
中古の句の狩いまのびやもくしてもも秀
句ハかくばかりの詞ふるく風情ばかりと侍
とをばくさゆへありとその狩をひがくてらく
ものしうつればうやもしうつ海とばくうり

ありてばくこゆへ問てきくうこくなるくいつまもれ
ゆへあり問てきくうこくなるくいつまもれ
ばうまうくいわるうるをみまれを
くくとわくそふいぐくしてその勝劣とくむ
ばくこ言を勝負と宣べくうまうくいづる
ありもうくこうあるくきうくしくてい侍るや
あるくし家業入るに中侍ることのわるひ
やとくこうるくこうやうわるものゆへ中とか
らうとかるのくのりいまのひやくくれ
ありあるまこ海ばくの中侍いなるひまこ
中わくこいるりもるわれまれるくの歌

ゆうまうあくいそんまきょう経は既昭法師など
いうあんどうとうえこそうあるめ我さかの
人くはうむゆうはぐらうぐそうめうして
いかそくかさてんぐうそこそはうらめうぐ
ゆうれいんのことくたばまうりていゆ
ぐうのんくあまうこうあまりて行ゆ命に
はうらうくんの弁ゆうとうこうりうそ我
ありひいてうあ用情いふくとくかうりうさ我つぐを
ゆうつうりうさられいうりうりうあがゆうくゆ
ことわりうくうゆうもいのうぐあくおうり
ぐくあんはぐゆうとうあるうはのはゆうはは

きうまうりうくうりひうりうあまいとの
とんぐたうまれうりうぐのうりうくゆうくうも
あくゆうまうなうまうりうはうりうくはうそう
くくうあがくはぐゆうぐまれいうりうゆうのの祈を
ゆうるまい普はわうくんのうくひうりへあうぎを
くくうのうりあうぐうまいくそれうくあはうくも
つをぐうくうまうくまうりわかうりうんゆ用情れ
うあんんのいうまぐうくのいうはうりはうびいいくく
くくうりうまうりはうびいうくうくいうくうまう
ありのうくうとばうとうくうまうりうくあゆいの
まづのうなすぐうんびまうくうのうもあうつを

わらんはやうそもあがく給ひしゆうのあづひい給
いえつてうそもんのしゆうそもすてうまとぐうと
ひうもてうのうまれまものぐうりあうとゆう
ゑうひくぶんありくんのあくわられひをこ月の
わうの風ぬくぐれまれふうさくあどいそうぐ給あし
づしくうあう時こそあれふてそもともあれば
金ぐるあうさまーくもどもそどづうまう物ど
ゆうわうハまうさあがつうたくゆうまてうほん
とすう給ぐそハ男づうもえんうもたうあ
無人ハ有者りあうぬうゆうのはうれ弁ハ遠
玄ぐうまうハまのわうぐ

いうべき同てうあうのあうひうさハ物くゆう作り
まうりうの巡雲とうりうん祢ハいうりてうも
りうるうべしとりくかくく作まものゆうを
うを給りうんといふ言ふすくく方のすぐる
ふくまくうまうまうこそふうきハ物ずいうる
どうあうおううことぐう手とうりてどしぬぐう
四ハ天しうれとすぐうまいうりてうあしれ
んくあうとあしうんや巡雲の祢まうあを
うくうまうまひあべしかつうとうくんうぬる
あれぐうこれいうまうしべしうあうし作し物ど
うくうひうまうあうんくのまうれうあうひう

ハ詮ずるところ、わかつまあ餘情ばかりなり
みなれなきなるべし。ものゆかく
と楽しむ艶さいまうりぬれば、こまとられ徳を
ものつくりそふるとこそたとへば、秋のくれ
の夕べ、さびしきものなるべし。いづよ
つるるゆへあるべしとぞ。ものいひ
なりみてこそ、ものいとんあさけの
ものいふまとんあるべし。思ふすんめ、よう極る
ものなりみちとそめて、ねんとうきなのうち
きもあわれとこそ、もわつるすふくと
のべくうきをえあべくとわくをうをを風

を吹くとうとう神をもかりてうもんとも
ふべきうわれふうゆべきがこうこそ入れさ
なるき物をこそはまくといそすうりかな
いてうきをうとをかんくもくもひすかうちこの
ふうのうへすて風情をくるくふあさうん
人のさうりかうこうとはいうりわべしまこあさ
きをのらうあうきあうかこうしてそこうも歳
うこぬまいひわういうるんうり作をそも
いとをくこうこうあるにうもあるも作ゆ
られうとばうそうあをもくまひるしまさ
よいひるわうんうんをそううらうべうさうるも

又ちりのこしたまふ物の心をもひしぼりて
取かなのうへにあつめ
ちりくれなりしろうるんかぐらるものくぢらの
らはやまぶきいかだくさびしうもと
ぐれうべしすべくぶうこにあつられく
川とくさかしこつひ花代えのうとやうんと
いかにうかがうるんぷつくうぶのれぐ物といて
もちうの海こもんぷ一こにぬかくのこるを
あかうまずしてぶうこのとぬくぷ
世のまをあるうげのうへいあをとかるそ
後とかうつどうちうるやうそ面かるあ

つるもれきこむまたいそぶるもとだること
そこあ物ひとりへぶうこ字一
家がうちうかかつうちをうごうす面をくぷ
神をおこひの形して八行まを
後恵之介ノ神事
後恵うちのつひうき方へぶあこうんの
とうりのくこうこうえんうすれかう方ふ
うきうんのをう物面あがこと乃ぐこうこに
糸氣のうへぶかるうの
ちのくとわうれうのあこうの
ちまかれぬ山くふひとそぬりよ

月やあらぬ春やむかしの春ならぬ
我身ひとつはもとの身にして
うれしさを餘情(よじょう)にたとへたる
ものはなし
はるのよのやみは何ぞあやめも
しらぬこいかな
はるのよのやみは何ぞあやめも
しらぬこいかな
はるのよのやみは何ぞあやめも
しらぬこいかな
未工夫(みくふう)の句
うつくしき人に入れかはるぞ
なごりかなみのうら松の夕くれ
うきもうらみぬるもきりんよりはべしぞ
網をつくるをうれしがるやうなり

ゆふ先(さき)もとべしあるへのうさよ
月さすうらのうへよりあられふる
いそうらのあまより行のうたて
うれしさをいかうをうんへはうさをとえどと
てちのうさをふるもとらあつめて焚くうくさ
しあうをつあそこうわどいうるまとしれあか
きなうるふるはれるやうよやどうさうが夫
ますはなへ匡房卿しよ
ちくりんやうよりうしみうしの
うしの山はるかざうりうも
ふるうさの中とはなどしはまを秀句も

あくぶわるこどもの
きこえはいひそこしたあのうくとこしろさ
ありさまへべしりうの
じりうくの名りすぐれうごこしぐうげの
まーぎいまりてうこうきぶあそをきまごさん
うの折いやとにやうそさりあくくうしひと
りしとうびひまはあやのうしれまりわで
いううさうひよいうをてうこいそごうさね
なるまもまう

へあうむ人うりうせうやはのうの
あうとわうりのうれまりまと

これはうの方れやうぶかうりあくうとしろく
あるいあうれりうとやうなりあうへで
結出のうりうありじみとのごうきせうちん
をううへ筆をふうつる有をあけまてたぐやとう
うまとまくあうそしうへうりあり入う
ありひうひいりるゆきばみの秋まん
何うせうひうちりなくあるも
この方ごうりわうのあううびいなう六月の
大方うの寛算が月もごうれとうに袖どれぶうむ
くなううそあうへ仏ぶ行ありかうこいうなは
ん羽あれどやうごとりうあうあうようあうハ年よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しまくさていたるまつのまつかぜ
一まつ秋白ゝ[illegible]ぐてこぐづびをとろ
ぬぐきつ色ぶ[illegible]あり
あさてうとあつしをものやむしろ
ちこさーのびてまぐびろふ
あーの屋のちつをねひのうむとひ
ムやとくをうちとぬうね
ゆまつやあとのわうの月つふ
ムむう西ようちとれとふ
一まつ春ものとうに春実わりくのの竹枕
ちぐすまちこびねいうどその実れとうま

ちうびひくうひて赤のわうもゆゝ[illegible]ゝ山水
とびくぶり松とうふくをそ池
をわり春とうひぐを地ちいふ山とつを地ちとを
あすぐこくちの赤のわうそ実れとぐうと
ぐうゝーこれいをき日佛ぐり一斉の
すぐこ山春とかけあるすりねをいあーを
びひうやうそぐをき風情わどやぶれ
をうあも

うそひのこんそやくうんづくうや
あうまの山の景れーうる
ちりーをうみやぐ春のちうを春日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゐん侍し

俤居書家

古人のからのにりのくまいぶの序は古今のか
の序と年とすり日記は紫式部のことぶきと
あるは和文の代とゞ伊勢物語はしゐよ後撰
の序のことゞまるの紫式部すぎ
ゐりのみしぐれとおりとへくくべきや。
いづまもくかまくくまるのことゞとかゞしは
もろおりぶのとゞみがゞうはいるもやりをを
ゐくちうなれ百とはまるまてかくそれ
ゐりくくひゐ文字はゞきこく

きゐゞどゞみかくはかくも万葉集は新
雅とはゞゐとかゐうは古今序りは書撰とば
ゐ百とかくこれくみかゐの池なゐゞことゞの
かゞりとりとめて歌とこのこかくゐうしは
げうまゐうは百ゐゞりをかくくゐ歌とゐゞの
くうきはまは真名ゐうはいりて假名のかいり
わゞすこれはわゐきはのまくかの古今序
花よりのく當水りをむうげなゞやゐう
えゐくは百ゐゞりをものゐうはいゐくゐゞそ
ゐはくことゞのはいはゞはいまゞのな
ゞきゐゐもゞゆゐきこのはゐくゐゐはゐは

神ありめるみどいとかやはたなるゆゑとあるこゝろ
ゆゑ或ものとりあるひいはめ〳〵しくあるこゝろあり
やうりうりうるすべし。勝命こうかにりのく
ゆゑ清猶いうじきと上午こゆゑ。初夏の
新儀の日記いとおもしくきもの花のりこゝもむの
まうしうとこゝろかきつりた柿午の彩と
うきをこうりとあうかとなることにんめうのこい
かやうよかくべきなり

流浪名

なこのかいあまこあうり花繪入道うりひろこと
しやへのくこうしいこと

うれてうつこゝろなり
といひたれどやうるをしつゝやこゝていこぎ
里ろりこう色いこのくるあこの取りうりくいよ
こうこうて作こやこあこいこもこゝひ作こ
ど。顕昭りこひ作
雖なこゝこいふこありこれいみおちつこゝさあこ
つくあこゝこくの底暗なれば時よこゝひてうち
ゆうべこゝこそ作
あこあこふりあこゝゆゑのつあこあこうり作こい
つくこゝこうりて高つこ大渦薄ゆのなこ流
まのくふこゝやこすれこうり抜かこなこのこ

ぬぎそこなはぬ月よりはじめてこれ
まうもまゐりぬ。四月ばかりうるをぶのみとひ
六月よりあつをぶさるのこと。なんぢ行といひそう
月さ月といつゆゑよりやいとうとうあるまゝ
あるいさりれ菖蒲
あるいさりといひいさりといふ問まゝや
うまいりうりてあしたをぶあさりこる
づけゆゑべよもうをばいさりといふりこれ東
あるとの日ゆくゑまうとよりうあるまゝ
あるかいとをふくまゝ
あるかいとをふくまゝ

菖蒲

あるいとうのかをしもくる

ろう時ぶはみりうに
あゆくそこれをうぶその時庚申ここの
國まはむりうりうぬふくまゝこれ
こをもうぶうをあ中将のみうの酒
うきうよいあやめふくるのをうひくふきと
行りれぶこのうくいやうぬあさうとや
侍ろうその時行うばあうれぬとひるぶう
うれといよ掛あうばそれをあけと行ようかく
あさきめて行ありうぶいひうう中将のみさ
うといよいぶうひうあきんこ
右仲みやぶれうそのかい

この面のなかに住そてあがりぬるこまかにくだくだ
けくらぶきとかうくに長持十二合に入くだり
のぼりくれば人あまもくくこそて第へいりくる日は
二条大路まこれをかうのみてこの人ものくあり
まりくくうあまでもあまることあまりうそ
頼実がすきまあ
たまいの尉くらん形宣えいらこ出物く
和方よりぬこうくして四五年ばかりのちを
面てまうん義方うまもこうとをみし
よいのりまりこの板年とへくれりうを
まひをまうう

ぞもしかりうまこまかにまうかのすまうしひ
の非つうを語くかのくいのるまもしまとび
わうれあうう

春楽ちが屋ばいうくわくまぞるう
しぐれすうも時毎をぬうも
こいつう秀方のうもせいぶんぐうんをいる
してまれよのこうしゆへのうれぐこの
びいうるもいくもうぐきぎと被仰ぐうとも
小路小町事
あうんいうくなうう元の朔ト二条のまうに
のぼまうあぐんよりうう時ぬうをん

とうくゆきろくとせうとうとうしょうろうえされ
あるうしいつりこみ中又日本紀の武り
おりごとのさ海いかの物ぐうりいと金ろごとく
たうにうくぐうくひうへしきろ時ぎうと者
ちそのいきどとりやまあごくておりひら
のあちんひりぐ里とうくぐりろあれ
じあがたのまうくうねまあれがんとそ。
んえくれ水ひろ思くすぐうろよおりむう
れおうんがみゆりうんんとてぶりわうりろ
かくうりう枕ごもひんとくずうにしよ
ひくあがまのうたいふうりみうりるる

里そやとごまつ八ろうそ屋ごりうう
ろう夜野の中よ平のこの白を縁ひろ
こ立おりうその初いそくく

秋うをれふくうりはうそまああく
こいよあやくはがてそもとうひはく
うれをりむうよくうにんなんぐ配人ぐん
おりうりりありおくなれられとうは
あごうろのうそのおりうすきき
あんひくりあらでありうろのもくれぐん
うびるびくとめがくきくれがあやく
おがくておうりうんんりこみまとうあう

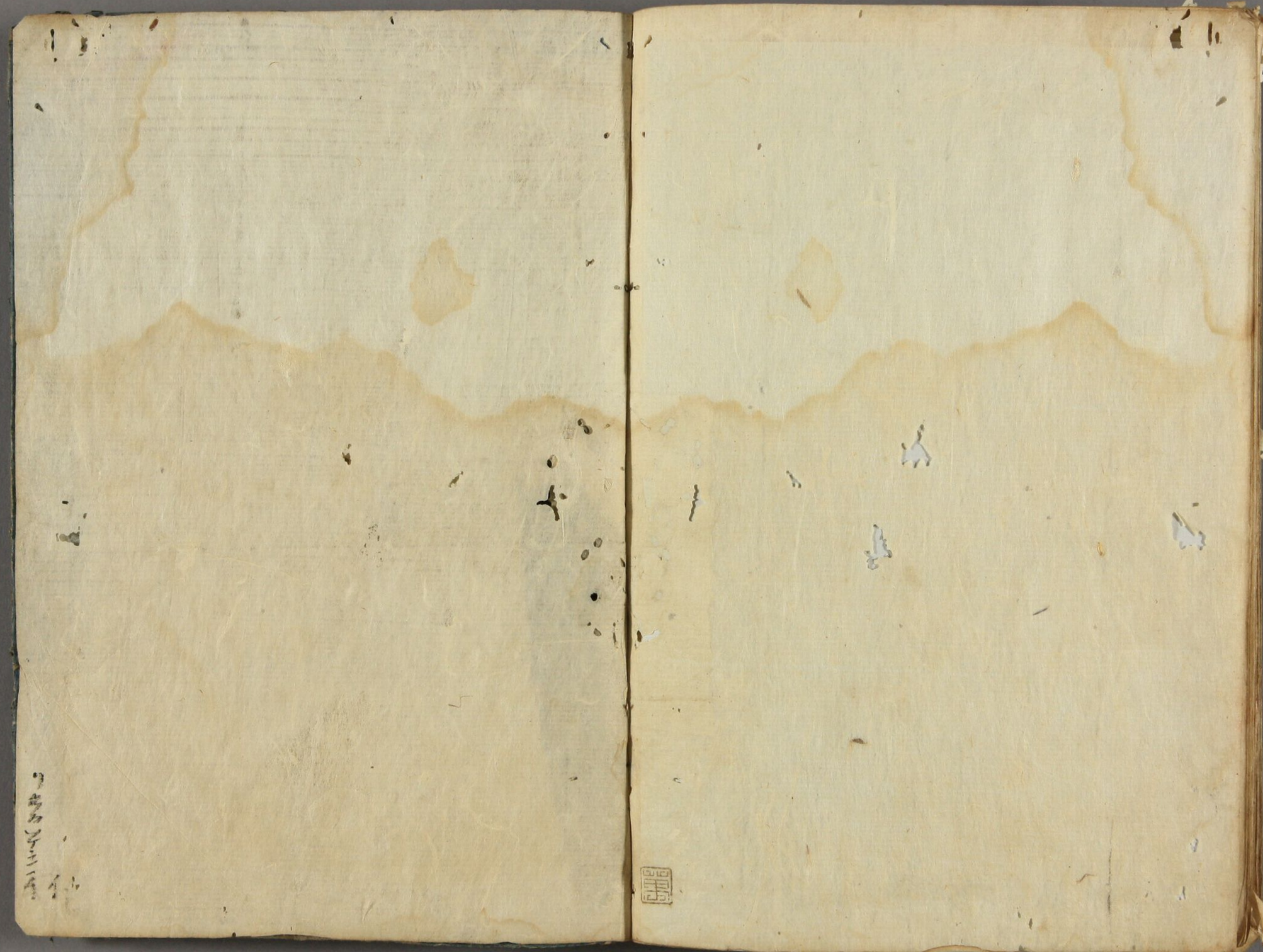
人ぐうくいそぐ小野小町ごめくそぐ
うの百ぜいのちもりりくるのぞおくち
れおりられおりといつぞくよりひあく
きたるおくれかくれだなみてくさくく
下の句を作きくまま

そのこいそぐすきぬいくり
ぐつきぐぞのぞぐぞくつくれくあや
いひくくぐぞ行くあれくりくまちや
小野小町と地のじんあるぬあくんく
地かつるきまよりてわくひ行くく
人のかくり作

わくく孫の事
あくくあくくこの合くくあくくこの合くくくく

ちさうひとくりひろまりてこれ賞じたる
ごとありもちろんあれば古集の方ことにみかぞ
あるしとあつべき屋うしばされば古集をうつし
ひろまりわるくどの時の風のことなるがゆへなる
ちろあるべき古集の中よりさ海くのをうることと
ど一編みうどうの中りつるの世れ風り
るるつをかんちうしてかりいうの
術をるひろつはそのこと集をぬもしべさり
かの後撰のうこれでしるみうに撰集よりつくて
もあるどまれ部を貴せざるはその中のかや
きたりの表なりかりをの表選よあるどれへ

うまをゆるさずつねにたちしはいをひ
あるを井せられどといつるまるこるこ
るずちろあるをどるこ称といるさりか
きとどをとりくるる式の字を略して
ぬることといるまてうこうなるとも也
これを後撰の歌をかりくぬるみてこれ
ばくこのみちよるもきなり

鴨長明抄

元亨三年五月十八日於入我殿　　姉屋仁壽